

議題(1)・(2)関連の参考資料

議題(1)関連

- ・重点プロジェクトに関する主な意見 ······ 1
- ・国内におけるアーツカウンシルに関わる取組状況 ······ 4

議題(2)関連

- ・シンボル事業に関する主な意見 ······ 5
- ・国内における主な国際芸術祭の開催状況 ······ 8

■重点プロジェクトに関する主な意見

※「文化芸術都市創造審議会」及び「文化芸術に関する意見交換会」における主な意見を集約

1. 文化芸術を活かしたまちの活性化

- ・合併して10年になるさいたま市にとって、新しいまちに文化芸術を浸透させ、先人達が培ってきたものを継承し、広め、それが最終的に地域活性化につながるようななかたちにできないものか。
- ・何らかの文化芸術の新規プロジェクトがないと、それは到底、都市の創造にはつながらない。
- ・さいたま市は文化的にはあまり特色がないということがイメージ調査でわかつています。もう少しまちそのもののクリエイティビティ、創造性を高めていく必要がある。
- ・さいたま市で生まれ育った者にも、「文化的なまち」「芸術のまち」というイメージは全くない。それならば、新たにつくるしかない。インパクトあるプロジェクト展開をする。新しい何かを発信していく。最初にそういうことがあって、それを継続することによって、さいたま市が新たな芸術的なまちであるとみんなが言えるようになる。
- ・今、さいたま市が実施するものに一番ふさわしいものを何か発案して、それに向けて、できるだけ市民の文化的な気持ちが集まるような方向性を求めるべき。
- ・何か大きなインパクトを与えるようなもの、世界からも呼び込むような何かという方向性で、いろいろな企画が考えられるのではないか。
- ・人を動かさなければだめだ。アジアの人たちが来て面白いと思えるようなものをつくればよい。
- ・文化芸術を活かしたコミュニティビジネスなど、行政が文化芸術とビジネスを結びつけるつなぎ役ができると一番良い。
- ・経済と文化の接点が、切り離されている。もう少し行政に対していろいろな面で相談をして、文化担当部局だけではなくて、商業や経済の担当部局などと情報連携することで、お金が回るようなきっかけになるようにつないであげることができると良い。
- ・今後、地域の活性化や経済と結びつけるには、本気で新しい仕組みのソフトを開発することを考えるべきではないか。
- ・地域の活性化につながっていくかというのは、やはり地元の方々のファンの熱がどれだけ沸き起こってくるか、あるいは、行政がそれをつないでいく、支援するということだと思う。地元から盛り上がったということは、広がりが出てくるということでもある。
- ・新しい芸術とか、新しい文化創造というものが、今、問われているのではないか。ですから、盆栽、漫画、人形、鉄道などによる地域活性化と並行して、都市としての魅力の増進ということを考えていくことが、さいたま市の文化芸術活動の成功の鍵を握っているのではないか。
- ・地域経済の活性化や産業の振興が図られるためには、さいたまの中だけで何かしていたのではだめで、関東、首都圏からの集客が不可欠だと思う。やはりそれだけの集客力を持つ一大イベント、シンボル事業のようなものを何か考えていかないと、結果はついてこないと思う。
- ・さいたま市は、政令市なので国際的な部分も考えた展開が必要。

2. 文化芸術都市創造を担う人材の育成

- ・埼玉県内には、若手芸術家のアトリエは数多くあるが、視線は東京や海外を向いており、地元で発表しようという意識は低い。
- ・さいたま市の出身で、さいたま市から出て行って、今、非常に活躍している陶芸家や画家などもたくさんいる。
- ・さいたま市の文化芸術を企画して行う上で、やはり人材の発掘が一番必要。
- ・長期的な若手の育成が大事ではないか。
- ・人材育成に関して、さいたま市では、団体に属していないと、文化芸術活動の発表の場が少ないように感じています。もう少し、個人が気軽に参加できるような開かれた発表の場があったら良い。
- ・今後の文化芸術にとって、創造性の高い人材をどのように育成していくかということが一番大切。
- ・ボランティア事業は、参加者が活動に参画することによって自らを高めるような参加経験が対価となる。こうした経験ができる機会を提供する。ボランティアが参加することは、市民の文化に対する参画度を高めることになるので、重要な制度であり、仕組みであり、ぜひ応援していかなければならない。
- ・文化イベントする際に、運営を手伝ってくれる人材が不足している。
- ・ボランティア活動に、何を一番期待しているかというと、自分がこの活動に参画することによって自らを高めると言いますか、参画して得る経験が何よりの対価になるわけで、お金ではないと思う。ここでの経験に意味があるわけですから、こうした経験ができる機会を提供することが必要。
- ・ボランティアに参加するということは、ある意味、自己実現あるいは自己研鑽、そういうことを期待していると思う。
- ・ボランティア制度は、市民の文化に対する参画度のようなものを高めることになるので、大変に重要な仕組みであり、ぜひ応援していかなければならないと思う。
- ・ボランティアというのがこれから重要になると思うのですけれども、ボランティアをやりたいと思ってもらうためには、やはり仕掛けが必要なのではないか。
- ・札幌のPMFというクラシックの音楽祭では、現地のボランティアさんたちが非常にたくさんいまして、皆、非常に朗らかで、お客様をもてなそうという姿勢があらわれていました。実際に間近で見て、札幌市のイメージがよりよくなっていくのを感じたので、やはりボランティアの育成というのも大事になってくると思う。
- ・ボランティアに関する人材の育成・支援をするのであれば、大きなフェスティバルのようなものを発案して、つまり、目的を明確にして育成を行った方がよい。

3. さいたま市の魅力ある資源の活用と発信

- ・盆栽や人形、鉄道などは、歴史があるさいたまの資源であり、本物は本物という味があると思う。新たに何かをつくるという発想ではなくても、これらをつなぐ、磨くという考え方もできると思う。
- ・さいたま市は、盆栽、人形、鉄道、漫画とそれぞれ良いものがありながら、ばらばらになってしまっているのが課題の1つではないか。
- ・人形と盆栽の一体感が足りないような気がしている。
- ・盆栽は国際的な文化になっている。我々自身も海外へ出て、外国の良いところは取り入れて、独特な文化性を高めていくという取組が必要。
- ・外国の方は盆栽や生け花、着物などは好きなので、発信の仕方によっては、さいたま市独自の盆栽や文化財などを集客につなげていくことができるのではないか。日本を訪れた外国人は東京には必ず行くので、東京から30分で来られることも発信していければと思う。
- ・「大宮盆栽美術館」が整備され、海外からの観光客が来て、まちづくりや経済活性化にもつながっていると思う。これから作る計画は、どのまちでも共通するようなことは最小限にして、さいたま市ならではのことが今後のまちづくりに活かされるようなものになればよいと思う。
- ・盆栽は重要な資源であり、国際的に大変評価されている。残念ながら、我々日本人のほうが盆栽の価値を忘れており、海外では、実は盆栽は「BONSAI」という用語のまま使われている。そういう意味からしても、文化的価値からも、経済的価値からも振興の意味はあると思う。
- ・盆栽はさいたま市の特色として強く打ち出せるものもあり、国際的にもアピールできる。
- ・色々な経緯があって、せっかくさいたまに盆栽村がある以上は、大いに活用していくなければならないと思う。
- ・岩槻の人形というのも、結構、全国区ではないか。
- ・岩槻の人形の同業者で、N P O 法人地域伝統文化推進機構を立ち上げた。人形の若手作家等の作品、技術、つくっている工程などを、ぜひ直に来て見ていただこうという呼びかけを大使館に対して行っている。
- ・過去の資源を集めていくことも大事だが、常にそこから新しい漫画家を発掘していくって育てていく、そういう観点を今後は持たないと、漫画文化の振興という観点から言うと難しい。
- ・今、全国的に最も評価されている文化の一つは漫画であり、しかも、国際的にも日本の漫画は評価されている。
- ・鉄道博物館はすでに発信力を持っている。人を呼ぶということでは、拠点となり得る施設だと思う。
- ・鉄道博物館を中心とした鉄道文化もさいたま市ならではと言える。

■国内におけるアーツカウンシルに関する取組状況

自治体	横浜市	東京都	大阪府・大阪市	沖縄県
名称	アーツコミッショナリコハマ [A C Y]	アーツカウンシル東京	大阪アーツカウンシル	沖縄文化活性化・創造発信支援事業
設立年	平成 19 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
概要	<p>公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が、横浜市文化観光局の補助金を受けて運営する事業としての位置づけ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金プログラム ・アーティスト・イン・レジデンス交流事業 ・A C Y講座 ・学生支援 ・芸術不動産・国内外 OPEN ! ・創造都市プロモーション 	<p>・東京芸術文化評議会での政策提言やこれを踏ました東京都の方針の下、事業を実施。また、事業評価およびカウンシルボードでの議論等を踏まえ、東京都への事業提案等も行う。</p> <p>・公益財団法人東京都歴史文化財団内に設置。 <設立趣旨> アーツカウンシル東京は、東京における芸術文化創造のさらなる促進や東京の魅力向上を図ることを目的とします。</p> <p>国際都市東京にふさわしい個性豊かな文化創造や、創造性に満ちた潤いのある地域社会の構築に貢献していきます。芸術文化の自主性と創造性を尊重しつつ、専門的かつ長期的な視点にたち、新たな芸術文化創造の仕組みを整えます。</p>	<p>大阪市・大阪府との協働により、文化施策を推進する新たな仕組みとして、行政と一定の距離を保ち、芸術文化の専門家等による評価・審査等を行う、いわゆる「アーツカウンシル」を導入。</p> <p>府市共通の戦略である「大阪都市魅力創造戦略」における重点取組みのひとつと位置付け、府市の文化施策を統一的に推進し、パワーアップを図るために、府市共同により文化振興会議（審議会）を設置し、その部会としてアーツカウンシル部会を設置。</p> <p>大阪アーツカウンシルにより、府市の文化施策の専門性、透明性、公正性の確保を図る。</p>	<p>・公益財団法人沖縄県文化振興会が実施。</p> <p>・沖縄県の多様で豊かな文化（沖縄文化）の活性化や、芸術文化の創造・振興・発信の一層の推進を支援するため、様々な分野の芸術文化活動、地域の芸能・行事等の文化資源を活用した取り組みや、アートマネジメントを含む広く沖縄文化の担い手や継承者の育成などの各種の取り組みに対しての費用を補助し、P D C A サイクルによる事業評価システムを導入し、“沖縄版アーツカウンシル”のあるべき姿について検討を進めていくことを目的として開始。あわせて、“沖縄文化の産業化”に至る前段階の課題であるマネジメントや市場開拓等に対する意識啓発あるいは芸術文化団体の組織化の促進を支援するための事業として位置づけられている。</p>
事業内容	<p>○先駆的芸術活動支援助成</p> <p>○都市文化創造支援助成</p> <p>○創造活動支援助成</p> <p>○アーティスト・クリエーターのための事務所等開設支援助成</p> <p>○芸術不動産リノベーション助成</p>	<p>○東京芸術文化創造発信助成</p> <p>東京の芸術文化の魅力を世界に発信する創造活動を支援するため、発信力のある活動を行う団体に対する助成を実施。対象事業の評価等をふまえ、現場ニーズに応じた効果的な助成システムを整備。対象分野は演劇、音楽、舞踊、伝統芸能といったパフォーミング・アーツ、美術・映像といったビジュアル・アーツ、さらには既存の枠にとらわれない新しい創造活動など、芸術表現活動全般。（平成 24 年度実績：申請件数 105 件、採択件数 57 件）</p>	—	<p>○一般提案：県内の文化芸術関連事業者の組織化、マネジメント力強化に資するインキュベート事業／沖縄文化の担い手・継承者の育成及び新たな文化創造の仕組みづくりに寄与する事業／新たな沖縄文化の創出、文化産業の創出等に寄与する事業／芸術文化の普及啓発（アウトリーチ）に寄与する事業</p> <p>○特別提案：沖縄県における芸術文化事業のチケッティングシステムの構築に関する検討事業／沖縄県内市町村の東アジア文化都市の立候補に向けた可能性検討調査／沖縄県内のメセナ活動の普及啓発についての調査研究／沖縄県を中核としたアジア文化交流ネットワークの構築に向けた調査研究／アートマネジメントの普及啓発に向けたセミナー・シンポジウムの開催</p>
評価システム	—	—	<p>○評価機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府市の文化事業の検証・評価、助成事業先の審査及び改善提案 ・アーツマネージャーによる実地調査 <p>※大阪府・大阪市の文化担当課で実施する文化施策：平成 25 年度当初予算約 6.4 億円</p>	<p>・支援事業選定にあたっての評価の視</p> <p>・事業の評価に向け、事業の主体者による値目標の設定を義務づけている</p>
企画・調査	—	<p>○企画戦略</p> <p>様々な調査研究、海外ネットワークづくり等により、芸術文化環境を整え、シンクタンク機能を充実。</p>	<p>○企画機能：新たな事業などの企画、立案及び提言等</p> <p>○調査（シンクタンク）機能：情報の収集、分析、提供</p>	—
その他	—	<p>○パイロット事業</p> <p>人材育成事業や、観光、地域活性化と連動した事業等先駆的な事業を実施します。</p>	<p>アーツカウンシルが対象とする芸術分野（想定）</p> <p>①美術・デザイン、②音楽、③演劇、④ダンス、⑤映像・映画、⑥伝統芸能・芸術、⑦複合芸術・その他</p>	—
財源	市補助（7,125 万円／H24 年度）	<p>・東京都補助（9,000 万円／H24 年度）</p> <p>・H25 年度中、ファンド（民間寄付）設置予定</p>	<p>・運営事業費（1,900 万円※／平成 25 年度）</p> <p>※府 900 万円、市 1,000 万円</p>	<p>・県補助（23,000 円／H25 年度）</p>
組織	—	<p>財団内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京アーツカウンシル東京機構長 —アーツカウンシル室長（PD） —P O／管理担当／企画戦略担当 ・カウンシルボード：必要に応じてアーツカウンシル東京の事業や施策、担うべき役割等についての助言を行います。 	<p>議会内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府市文化振興会議（本会議） —アーツカウンシル部会 ・統括責任者（公募による府非常勤職員）：府市文化振興会議の委員として調査審議、アーツカウンシル部会の部会長として、部会に属する委員等を統括、府市文化振興会議への報告。 	<p>P D 1 名 — P O 4 名</p> <p>※採択事業の実施期間中は、P D、P O、文化振興会が支援、助言を行うとともに、P D C A サイクルによる評価システムを導入、文化振興会の要請に応じて、進捗に関する中間報告を行う。</p>

■シンボル事業に関する主な意見

※「文化芸術都市創造審議会」及び「文化芸術に関する意見交換会」における主な意見を集約

1. 実施目的

- ・文化芸術都市を創造するためには、各種施策の地道な展開と併せて、何かインパクトのある事業を実施しないと、全体がうまく回転していかない。
- ・行うことによって、何か変わったと多くの市民に思わせるシンボルが必要。
- ・土地の持っている強いもの、政治の体制とか、元号が変わったぐらいでは変わらない、DNAとして流れているものがある。さいたま市は何を持っているのか。今まで学校で教わってきたたかだか昭和の社会の授業みたいなことを一旦頭から外して、見つけたものがシンボル事業の底の底のコアになるものだ。
- ・さいたま市レベルの都市になったら、文化芸術を独自に育てていく位の発想が必要ではないか。他自治体がまだ取り残してところをうまくつかんで、さいたま市独自のものをつくり、それを振興する必要がある。
- ・文化芸術都市の創造という意味では、市民がふだんやっていることの発表の機会をもっと増やす、活動によってお金が回る仕組みをつくるなどの視点も必要であり、そのために大規模な高いレベルもので人を呼ぶということも必要で、単発のシンボル事業になってはいけない。

2. 方向性

- ・一流の芸術鑑賞の機会が求められている。伝統的なさいたま市のアンデンティティーを確立するための文化の創造・促進という方向性も大切だが、同時に市民が簡単に参加できるような一流芸術の鑑賞機会が、これまで意識してきた以上にニーズとして高いのではないか。
- ・ある種のパンチ力のある、人を集め、人を動かすというものも必要。発信力のあるイベントを実施することによって、そこに認知度、集中度が高まる。
- ・さいたま市をイメージさせる何かを生み出す必要がある。今までに積み上げられたものはもう完結している。あとは、市として、新たにつくるもの、展開していくものとしては、もう少し何かを生み出すという視点で検討を進めるべき。
- ・さいたま市民にはいろいろな方がいて、都内で働いて寝るために帰ってくるだけの若い人たちに対しても、幅広く展開するための知恵が要る。
- ・この目的のためならボランティアになりたい、何かを支えたいと市民が思っていただけるようなものを発案していくと、具体的に方向性が定まってくる。映画でも、音楽祭でも、演劇祭でも何でもいいが、今、さいたま市が実施するのに一番ふさわしいものを発案して、それに向けて、できるだけ市民の文化的な気持ちが集まるような方向性を求めるのが早道だ。
- ・さいたま市にいる人間が参加しやすいもの、多くの市民がそれに共鳴して参加したいと思わせるものをシンボル事業とするべき。
- ・イベントのネーミングは「アートフェスタさいたま」とし、文化や伝統的なものが未来へと引き継がれていく、人と人がイベントを通じてつながっていく、そして、さいたま市から発信して世界へつながっていく、あるいは、盆栽、人形、鉄道、漫画をつなげていくという意

味で「つなぐ・つながる」というサブタイトルを提案したい。

- ・さいたま市のイメージとして多くの人が挙げる「スポーツ」とうまくリンクしたコンセプトがいい。
- ・シンボル事業をやるにあたって大事なのは、市長や区長、各施設の館長、教育委員会などが同じ方向を向いて、積極的に盛り上げていく必要がある。

3. 事業構想

- ・シンボル事業の開催にあたって大切なことは、シンプルでわかりやすく、強烈なコアが必要。
- ・鉄道も、盆栽も、人形も、それなりの知名度は確立しているのだけれども、もう一つ、東京から人を呼び込めるようなコアになる何かを探す必要がある。
- ・鉄道博物館と大宮盆栽美術館のターゲットは異なるかもしれないが、例えば、「音」と「光」などの普遍的なテーマを設定し、プロデューサーを招聘して、鉄道博物館と大宮盆栽美術館で同時に「音」と「光」のイベントを開催するというような、共通のコンセプトによる事業展開が必要ではないか。
- ・浦和市から始まって、さいたま市は非常に合唱が盛ん。埼玉の合唱の集い、浦和の合唱の集いなど前身があり、宝であろう。
- ・芸術週間なり、ある種、核になって目立つ発信力のあるものをコアとして実施するべき。例えば、ベルリン・ドイツ・オペラの『マクベス』というオペラを400人の合唱団でスーパーアリーナにおいて蜷川演出でやる、あるいは、大宮は交通の要所なので、東北各県の祭を呼んで、さいたまの祭も合わせて山車や浦和の神輿などが集まったイベントをやる、あるいはアジアの芸能をフェスティバルとしてやるというような、ある種、核になって発信できる、人を動かすイベントを実施する。
- ・政令指定都市の文化振興イベントは、①国際性を持ち国際的に発信力を持つアートのイベント、②市民活動に対する応援を重視した活動、③お祭性の高いイベントで駅ビルや商店街などの商業施設とコラボしたイベント、の3つに分類できる。まず、どのグループに属するかたちでさいたま市はやっていきたいのか、費用、方向性、スケジュール、コンセプト、全体的なプロデュースの有無などを考えていく必要がある。
- ・具体的にプロデュースする実務会議を立ち上げて検討する。具体化するにはどうしたらいいかという集まりを開いて検討すべき。
- ・もともと合併により一体感が出ていないところは、逆にまとめて見せるシンボル事業として、それぞれは小さな玉かもしれないけれども、それを一斉に見てもらえるきっかけとなる場をつくれればいい。
- ・さいたま市に泊めてまで何かさせなければいけないと、地域の活性化に結びつかない。
- ・観光として見ると、ハードは非常に充実しているが、ソフトはない。芸術祭は数多くあるが、わざわざ行きたくなるものに求められているのはリアル感で、とつつけたようなイベントをしてもなかなか持続性がない。

- ・外部の芸術家を単に招くだけでは、何も残らない。
- ・住んでいる人間にとっては、近くの公園が市営であろうが、県営であろうが、国営であろうが全く関係ないのと同じように、どこが主体であってもあまり関係ないというのが実感。県や国の取り組みも取り込んで一緒に展開すべき。

4. 実施期間・時期

- ・イベントの塊をつくって、継続的に行わないと意味がない。継続は力なりで、継続するための方策やアイディアがないと発展しない。
- ・イベントの規模にもよるが、毎年開催しなくても良い。簡単なものなら毎年できるかもしれないが、大規模なイベントであれば、準備や財政的な面を考えると難しい。
- ・美術はスタティックで1ヶ月やっていてもそれなりのお客さんを集められるが、音楽は集中的に行う必要がある。
- ・多くの市民が参加できれば活性化されるので、時期や時間帯、曜日などに配慮すべき。

■国内における主な国際芸術祭の開催状況

	水と土の芸術祭	横浜トリエンナーレ	あいちトリエンナーレ	神戸ビエンナーレ	瀬戸内国際芸術祭
コンセプト	市町村合併を経て政令市となった新潟市が新たな都市イメージを模索する中で、水と土との関わりに共通の成り立ちを見いだし、そこにアイデンティティを求める。	1859 年の開港以来、さまざまな文化を積極的に受け入れ、それらが交流し、新たな文化を醸成し、そして発信する都市として発展してきた横浜では、2004 年に市の政策として創造都市政策を策定し、文化芸術が持つ力を活かしたまちづくりを推進。横浜トリエンナーレはそのリーディング・プロジェクトとして位置づけられている。 アートを通して、まちにひろがり、世界とつながり、横浜のまちづくりに寄与しつつ、新しい価値を世界に発信することを目指す。	○基本構想 経済面において、日本と世界をリードする一大拠点であるこの地域から、文化芸術面でも日本や世界に貢献していく。 ○開催目的 ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。 ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。 ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。	神戸は古くから陸海交通の要衝として栄え、国際港として発展。特に明治の開港を契機に、人・もの・情報の拠点として先駆性、多様性という文化風土を創り上げてきた。また、阪神・淡路大震災からの復興のなかで、人への思いやりの大切さや傷ついた心を癒し、勇気を与えてくれた芸術文化の力を実体験したまちでもある。 こうした神戸のまちの歴史・経験を踏まえ、震災 10 年を機に「神戸文化創生都市宣言」を行い、文化を活かしていくことと進化するまちづくりを目指すことを内外に発信した。そして神戸に芸術文化の力を結集して更なる振興を図るとともに、まちの賑わいづくりや活性化につなげるための具体的な取り組みとして、2007 年より 2 年に 1 度の芸術文化の祭典「神戸ビエンナーレ」を開催。	○海の復権 古来より交通の大動脈として重要な役割を果たした瀬戸内において、船は文化を伝えるとともに島々の固有の文化とつながり、美しい景観とともに伝統的な風習として伝わっている。島々の活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指し、瀬戸内海の魅力を世界に発信する。 ○島×生活×アート それぞれの島で育まれてきた固有の民俗を活かし、島々で営んできた生活、歴史に焦点を当て、アートが関わることによって住民、特に島のお年寄りたちの元気を再生する機会を作り出す。活動の過程では、日本全国・世界各国から世代・地域・ジャンルを超えた人々が集い、次代を担う若者や子どもたちも含めた地域の人々と交流し協働することで、瀬戸内の未来を拓く大きな原動力となる。
沿革	2009 年 第 1 回開催 2012 年 第 2 回開催	2001 年 第 1 回展開催 2005 年、2008 年、2011 年 [計 4 回]	2010 年 第 1 回開催	2007 年 第 1 回開催 2009 年、2011 年 [計 3 回]	2010 年 第 1 回開催 2013 年 第 2 回開催中
最新の開催期間	2012 年(平成 24 年) 7 月 14 日～12 月 24 日 [164 日間]	2011 年(平成 23 年) 8 月 6 日～11 月 6 日 [83 日間]	2010 年(平成 22 年) 8 月 21 日～10 月 31 日 [72 日間]	2011 年(平成 23 年) 10 月 1 日～11 月 23 日 [54 日間]	2010 年(平成 22 年) 7 月 19 日～10 月 31 日 [105 日間]
開催テーマ	転換点 －地域と生命(いのち)の再生に向けて	ヨコハマトリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ることができるか？ー	都市の祝祭 Arts and Cities	きら kira	アートと海を巡る百日間の冒険
会場	市内全域 ・市民プロジェクトは、市内全域で展開 ・アートプロジェクトは、信濃川下流域を中心とした市内各所で展開	主会場：横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)、その他周辺地域	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場 その他、名古屋城、オアシス 21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど	神戸ハーバーランド ファミリオ キャナルガーデン、ポーアイしおさい公園、兵庫県立美術館 ギヤラリー棟 3 階、元町高架下 (JR 神戸駅～元町駅間)	高松港周辺、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島
主な事業	(1)市民プロジェクト ・市民プロジェクト（市民が企画立案し、実行委員会が支援）応募 162 件、採択 160 件、実施 137 件 ・こどもプロジェクト（大学や教育関係者と連携し企画・運営）実施回数 77 回、参加者数 4,643 名 (2)アートプロジェクト（実行委員会が作家・作品を公募・招聘） ・アート作品展示：参加作家 59（海外 8）、66 作品 ・パフォーマンス：49 団体 (3)シンポジウム：6 回 みずつち学校：6 回	○アート展示：参加作家数 77 組 (79 人)・1 コレクション、作品数 337 件 (734 点) ○連携プログラム ・展示部門：計 38 イベント ・パフォーミングアーツ部門：計 10 イベント ・音楽部門：計 2 イベント ・セミナー・講座部門：計 12 イベント ○特別連携プログラム 「新・港村～小さな未来都市」「黄金町バザール 2011」	○現代美術の国際展：世界各国 75 組のアーティスト ○パフォーミング・アーツ：21 組のアーティスト ○あいちトリエンナーレ 2010 プロデュースオペラ ○映像プログラム：世界各国の 12 名の映像作家による長短編映像 70 作品 ○企画コンペによる展覧会：愛知芸術文化センター 9 企画、長者町会場 12 企画 ○普及・教育：キッズトリエンナーレ、学校向け教育プログラム、ボランティアによるガイドツアー	○コンペティション：アートインコンテナ国際コンペティション、しつらいアート国際コンペティション、こども絵画コンクール等、計 11 部門 ○イベント：特別シンポジウム「きらめく日本の文化力」、きら kira コンサート、神戸ビエンナーレ 2011 スイーツスタンプラリー他 ○企画展示：招待作家展、いけばな未来展、工芸展、日本画展、障がい者公募作品展、天津招待作家展、文化庁メディア芸術祭ネットワークス、神戸の生活文化発信、書道展等、計 17 回	○18 の国と地域から 75 組のアーティスト・プロジェクトと 16 のイベントが参加。屋外空間や民家などを舞台に、アートプロジェクトを展開。 うち 6 作品は(株)ベネッセ・ホールディングス、10 作品は(財)直島福武美術館財団による設置。 ○芸術祭主催・共催イベントは、84 イベント、延べ 208 回。 ○「市町の日」イベントでは、県内各市町がサンポート高松のデックスガレリアで観光 P R、物産紹介、郷土芸能の披露を行った。
来場者数	約 72 万人	約 33 万人	572,023 人（当初想定 30 万人）	242,766 人（目標 20 万人）	938,246 人（目標 30 万人）
総事業費	約 2.8 億円	約 9 億円	約 12.9 億円	約 2.85 億円（見込み）	支出約 6.89 億円（収入約 7.93 億円）
経済効果	県内に及ぼす波及効果 約 19.5 億円 パブリシティ効果 約 29.3 億円	市内への波及効果 約 43.6 億円 パブリシティ効果 約 45.6 億円	県内に及ぼす波及効果 約 78.1 億円 パブリシティ効果 約 47.3 億円	未公表	約 111 億円